分子予防医学講座（松島研究室）

【松島教授の簡単な自己紹介】

〇ケモカインファミリー分子のプロトタイプである

・MCP-1/CCL2の単離（1985年）

・Interleukin-8/CXCL8の単離（1987年）・クローニング（1988年）

を行った。

〇これらの仕事によって、炎症時に白血球（好中球）が組織浸潤/集積 するという現象が、白血球走化性因子「ケモカイン」という分子で特異的に制御されていることを解明した。

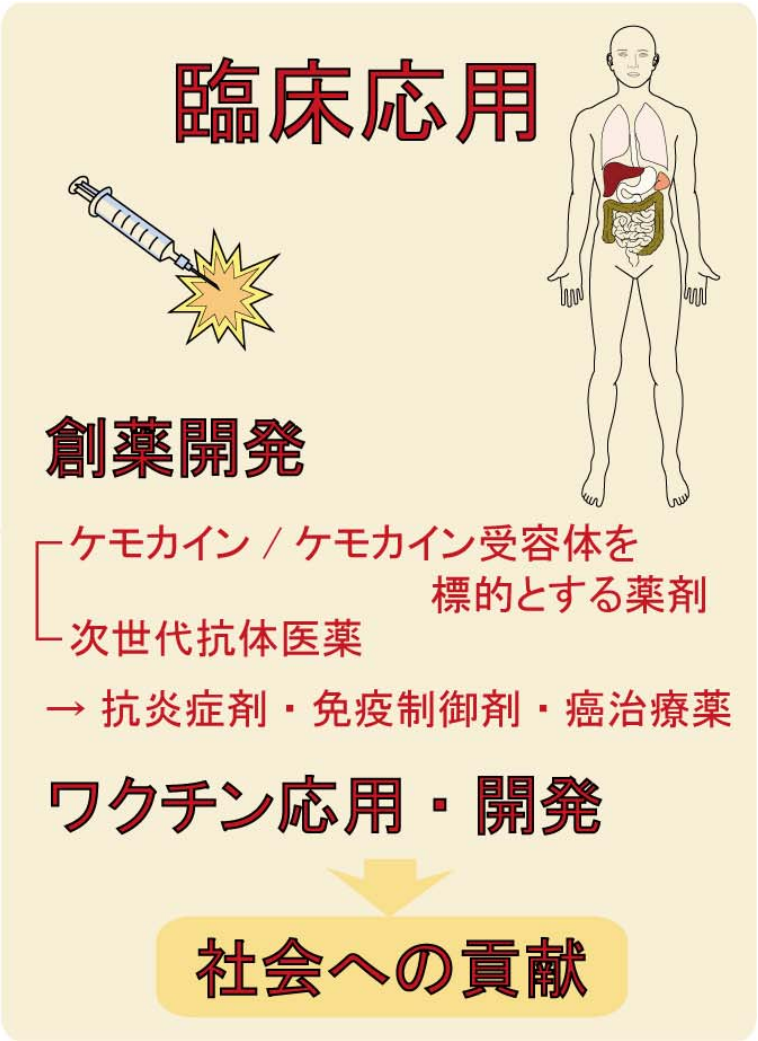
【研究室の特徴】

免疫応答を「ケモカイン」分子を軸に個体〜組織（臓器）〜細胞〜分子レベルで研究することで

<u>高次システムとしての免疫系を理解する</u>アプローチ

研究内容

～基礎研究から創薬・予防医学まで～



詳細は研究室のサイト (http://www.prevent.m-tokyo.ac.jp) をご覧下さい

MD研究者育成プログラムへの対応

【フリークォーター】
研究室で進行中の研究活動に一部参加する形が主体となるが、個別に相談に応じます
免疫学、とりわけ個体の中で種々の白血球がダイナミックに移動する様態に、少しでも興味や関心があれば、どうぞご参加ください

【メッセージ】
よく『免疫学は終わった』というが、実際には白血球サブセット同定や抗原認識機構等の個々のパーツが明らかになった状態にすぎない。解析技術の進歩により、いよいよ個体レベルで高次系としての免疫システムを解明できる時代が到来した。研究室のテーマは、基礎免疫学にとどまらず、感染症、アレルギー・自己免疫疾患、腫瘍の診断・治療・予防へ大きく展開しており、生命現象をシステムで捉えることに長けていて臨床応用力があるMD出身者が存分に活躍できる。

【メンバー】

スタッフ	5人
大学院生	9人
（うち留学生	2人）
（うちMD系	6人）
研究員	9人
技術員	5人

（2008年10月現在。最新情報は研究室のサイトをご覧下さい）